

東洋・日本美術史専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 学期	曜日	講時	頁	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
東洋・日本美術史特論Ⅰ	信仰と造形	2	長岡 龍作	1学期	木	2	1	東洋・日本美術史特論Ⅰ
東洋・日本美術史特論Ⅱ	日本近世美術史	2	杉本 欣久	1学期	水	3	2	東洋・日本美術史特論Ⅲ
東洋・日本美術史特論Ⅲ	日本中世の天皇と美術	2	高岸 輝	集中(2学期)			3	東洋・日本美術史特論Ⅰ
東洋・日本美術史特論Ⅳ	信仰と造形	2	長岡 龍作	2学期	木	2	5	東洋・日本美術史特論Ⅱ
東洋・日本美術史特論Ⅴ	日本近世美術史	2	杉本 欣久	2学期	水	3	6	東洋・日本美術史特論Ⅳ
東洋・日本美術史研究演習Ⅰ	美術史基礎資料読解	2	長岡 龍作	1学期	水	4	8	東洋・日本美術史研究 演習Ⅰ
東洋・日本美術史研究演習Ⅱ	日本絵画作品研究	2	杉本 欣久	2学期	水	4	9	東洋・日本美術史研究 演習Ⅱ

科目名：東洋・日本美術史特論Ⅰ／History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)Ⅰ

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：長岡 龍作（教授）

講義コード：LM14210， 科目ナンバリング：LIH-ART601J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 東洋・日本美術史特論Ⅰ 】

1. 授業題目：

信仰と造形

2. Course Title (授業題目)：

Faith and Creation of Image

3. 授業の目的と概要：

この講義では、東アジアの宗教美術、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。前期は、「日本美術史」研究の成立史を概観した後、舍利信仰の広がりや美術の様相を見た後、東アジアの各時代の美術を取り上げ、特に世界観との関わりからその意味と表現を探っていく。

4. 学習の到達目標：

- (1) 宗教思想と美術の関係を理解する。
- (2) 美術に投影された世界観を理解する。
- (3) 表現を理解する方法を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション—「信仰と造形」をめぐる基礎的問題
2. 「日本美術史」のはじまり 1 「日本美術史」前史
3. 「日本美術史」のはじまり 2 「日本美術史」の成立
4. 「日本美術史」のはじまり 3 「日本美術史」の展開と相対化
5. 舍利信仰と美術 1
6. 舍利信仰と美術 2
7. 舍利信仰と美術 3
8. 中国南北朝時代の世界観と造形 1
9. 中国南北朝時代の世界観と造形 2
10. 中国隋唐時代の世界観と造形 1
11. 中国隋唐時代の世界観と造形 2
12. 中国五代北宋の世界観と造形 1
13. 中国五代北宋の世界観と造形 2
14. 朝鮮半島三国時代の仏教美術
15. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート [80%]、出席 [20%]

7. 教科書および参考書：

参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009 年、長岡龍作『仏像—祈りと風景』（敬文舎）2014 年

8. 授業時間外学習：

授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べる

9. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史特論Ⅱ／ History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：杉本 欣久（准教授）

講義コード：LM13305， 科目ナンバリング：LIH-ART602J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 東洋・日本美術史特論Ⅲ 】

1. 授業題目：

日本近世美術史

2. Course Title (授業題目)：

The Edo era Art History

3. 授業の目的と概要：

美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は「日本絵画史」の続編にあたり、東アジアにおける文化の総決算ともいえる江戸時代に焦点を絞り、その広範な文化的背景を解きほぐしつつ、主要な美術作品の諸様相について概観していく。「絵画」のみではなく、「刀剣」「刀装具」「染織」などの諸工芸についても言及し、東アジアのなかの日本という観点から、中国大陆や朝鮮半島からの影響と日本の独自性についても考える。

4. 学習の到達目標：

歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡（鑑）」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の人間精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

講義だけではなく、視覚機器（プロジェクター）を使用して美術作品を鑑賞する。

1 回目 ガイダンス

2 回目 狩野派の系譜（室町から桃山）

3 回目 狩野派の系譜（江戸狩野と英派）

4 回目 京都の町絵師（俵屋宗達から宮崎友禅へ）

5 回目 尾形光琳と乾山

6 回目 日本刀の精神

7 回目 刀装具と鐔の意匠性

8 回目 8 代将軍徳川吉宗の事績と狩野派

9 回目 対外交渉と長崎派

10 回目 沈南蘋と南蘋派

11 回目 『芥子園画伝』と文人画の黎明

12 回目 池大雅と高田敬輔の系譜

13 回目 雪舟流 1 一雲谷派と矢野派一

14 回目 雪舟流 2 一長谷川派と江戸の雪舟流一

15 回目 補筆・改変・贋造

6. 成績評価方法：

レポートによる評価。

【レポート】最終講義日を提出期限とし、それ以降は受け付けない。

詳細については、提出前数週間前のうちに授業時間内に伝えるものとする。

7. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

辻惟雄『カラー版 日本美術史』（美術出版社）

尾藤正英『日本文化の歴史』（岩波新書 668）

◎美術全集

『原色日本の美術』（小学館 1970 年代前半）

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970 年代前半）

『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970 年代前半）

『日本美術全集』（学習研究社 1970 年代後半）

『日本美術全集』（講談社 1990 年代前半）

『世界美術大全集』東洋編（小学館 1990 年代後半）

『日本美術全集』（小学館 2010 年代）

8. 授業時間外学習：

内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を得ることができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が见えていて何が见えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくとい。

9. その他：なし

初回の授業は必ず出席すること。

科目名：東洋・日本美術史特論Ⅲ／ History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)Ⅲ

曜日・講時：後期集中 その他 連講

学期：集中(2学期)， 単位数：2

担当教員：高岸 輝（非常勤講師）

講義コード：LM98829， 科目ナンバリング：LIH-ART603J， 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 東洋・日本美術史特論Ⅰ】

1. 授業題目：

日本中世の天皇と美術

2. Course Title (授業題目)：

Emperors in Medieval Japanese Art History

3. 授業の目的と概要：

日本中世美術史において、天皇の果たした役割や機能を考察する。中世における権力構造は、天皇を中心とする公家勢力と、幕府（鎌倉幕府、室町幕府）を頂点とする武家勢力の対抗や協調を基調とする。同時代の公家日記等を精読すると、天皇や将軍たちが直接制作に関与した絵画群、とりわけ絵巻の制作・鑑賞・貸借・奉納の実態が浮上する。伏見宮貞成親王の『看聞日記』、三条西実隆の『実隆公記』等を参照しつつ、後白河上皇による蓮華王院宝蔵の美術コレクションから、室町時代の足利将軍による絵巻制作にいたる流れを展望する。

4. 学習の到達目標：

中世に焦点を当て、日本美術を取り巻く社会と人の動きを、特にパトロン（天皇、将軍）、プロデューサー、絵師の活動を動的に理解することを目指す。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

各回の内容は以下の通り。

- (1) 古代絵画と天皇—正倉院から蓮華王院宝蔵へ
- (2) 後白河上皇と蓮華王院宝蔵
- (3) 花園天皇と後醍醐天皇
- (4) 高階隆兼の絵巻—「春日権現験記絵巻」「玄奘三蔵絵」
- (4) 合戦絵巻と東北地方
- (5) 『看聞日記』のなかの絵巻
- (6) 『看聞日記』の唐絵とやまと絵
- (7) 天皇と土佐派
- (8) 天皇・将軍と「融通念仏縁起絵巻」
- (9) 足利義教と「誉田宗廟縁起絵巻」
- (10) 後花園天皇と「天稚彦草紙絵巻」
- (11) 『実隆公記』のなかの絵巻
- (12) 『実隆公記』にみる絵画の制作過程
- (13) 土佐光信と「洛中洛外図屏風」の風景
- (14) 土佐光茂と中国憧憬の絵画
- (15) 戦国時代の南都絵所と「道成寺縁起絵巻」

6. 成績評価方法：

授業中の貢献（小課題、発言等）（50%）および期末のレポート（50%）による。

7. 教科書および参考書：

（参考書）

増記隆介・

皿井舞・佐々木守俊『天皇の美術史』第1巻（古代国家と仏教美術）（吉川弘文館、2018年）

伊藤大輔・加須屋誠

『天皇の美術史』第2巻（治天のまなざし、王朝美の再構築）（吉川弘文館、2017年）

高岸輝・黒田智『天皇の美術

史』第3巻（乱世の王権と美術戦略）（吉川弘文館、2017年）

8. 授業時間外学習：

集中講義開始前に、各回の講義に対応した読書課題を設定する。

9. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史特論Ⅳ／ History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)Ⅳ

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：長岡 龍作（教授）

講義コード：LM24212， 科目ナンバリング：LIH-ART604J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 東洋・日本美術史特論Ⅱ 】

1. 授業題目：

信仰と造形

2. Course Title (授業題目)：

Faith and Creation of Image

3. 授業の目的と概要：

この講義では、古代日本の造形、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。後期は、平安後期の造形と日本中世の造形を取り上げ、特に「祈願」との関わりからその意味と表現を探っていく。さらに、空間と造形の関わりについても論じる。

4. 学習の到達目標：

- (1) 宗教思想と造形の関係を理解する。
- (2) 造形に投影された世界観を理解する。
- (3) 造形表現を理解する方法を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクションー「信仰と造形」をめぐる基礎的問題
2. 平安時代後期の信仰と造形 1
3. 平安時代後期の信仰と造形 2
4. 平安時代後期の信仰と造形 3
5. 平安時代後期の信仰と造形 4
6. 日本中世の信仰と造形 1
7. 日本中世の信仰と造形 2
8. 日本中世の信仰と造形 3
9. 日本中世の信仰と造形 4
- 1 0. 空間と造形 1
- 1 1. 空間と造形 2
- 1 2. 空間と造形 3
- 1 3. 空間と造形 4
- 1 4. 空間と造形 5
- 1 5. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート [80%]、出席 [20%]

7. 教科書および参考書：

参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009 年、長岡龍作『仏像一祈りと風景』（敬文舎）2014 年

8. 授業時間外学習：

授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べること

9. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史特論Ⅴ／ History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)Ⅴ

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：杉本 欣久（准教授）

講義コード：LM23306， 科目ナンバリング：LIH-ART605J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 東洋・日本美術史特論Ⅳ 】

1. 授業題目：

日本近世美術史

2. Course Title (授業題目)：

The Edo era Art History

3. 授業の目的と概要：

美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は前期に引き続き、東アジアにおける文化の総決算ともいえる江戸時代に焦点を絞り、その広範な文化的背景を解きほぐしつつ、主要な美術作品の諸様相について概観していく。「絵画」のみではなく、「刀剣」「刀装具」「染織」などの諸工芸についても言及し、東アジアのなかの日本という観点から、中国大陆や朝鮮半島からの影響と日本の独自性についても考える。

4. 学習の到達目標：

歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡（鑑）」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の人間精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

講義だけではなく、視覚機器（プロジェクター）を使用して美術作品を鑑賞する。

1 回目 ガイダンスー江戸絵画の真贋

2 回目 浮世絵 1

3 回目 浮世絵 2

4 回目 武士の絵画 1 一鑑戒

5 回目 武士の絵画 2 一暢神

6 回目 円山応挙と円山派 1

7 回目 円山応挙と円山派 2

8 回目 与謝蕪村と呉春 一四条派の絵画

9 回目 大坂の絵画

1 0 回目 江戸時代の仏教と戒律復興

1 1 回目 江戸の絵画と谷文晁

1 2 回目 洋風画と司馬江漢・渡辺崋山

1 3 回目 好古家と考古学の黎明

1 4 回目 伊藤若冲 一ブームの功罪

1 5 回目 東北の画人

6. 成績評価方法：

【レポート】最終講義日を提出期限とし、それ以降は受け付けない。

詳細については、提出前数週間前のうちに授業時間内に伝えるものとする。

7. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

辻惟雄『カラー版 日本美術史』（美術出版社）

尾藤正英『日本文化の歴史』（岩波新書 668）

◎美術全集

『原色日本の美術』（小学館 1970 年代前半）

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970 年代前半）

『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970 年代前半）

『日本美術全集』（学習研究社 1970 年代後半）

『日本美術全集』（講談社 1990 年代前半）

『世界美術大全集』東洋編（小学館 1990 年代後半）

『日本美術全集』（小学館 2010 年代）

8. 授業時間外学習：

内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を得ることができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、

あるいは何が見えていて何が見えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくとい。

9. その他：なし

初回の授業は必ず出席すること。

科目名：東洋・日本美術史研究演習Ⅰ／History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：長岡 龍作（教授）

講義コード：LM13407， 科目ナンバリング：LIH-ART606J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 東洋・日本美術史研究演習Ⅰ】

1. 授業題目：

美術史基礎資料読解

2. Course Title (授業題目)：

Reading the historical documents of art history

3. 授業の目的と概要：

この演習では、美術と深く関わる基礎資料を読み込み、その内容が残されている美術作品とどのように関わっているかについて探求し、資料の創造的な読みを実践しようとするものである。『菅家文草』・『本朝文粹』・『日本彫刻史基礎資料集成鎌倉時代造像銘記篇』・『江都督納言願文集』から造像に関わる願文を選び、それを素材としていく。

4. 学習の到達目標：

基礎資料の読解力を身につけるとともに、美術史研究における資料の創造的な活用法を探求する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODakションー造像銘記ならびに納入文書について
2. 発表準備
3. 発表準備
4. 発表準備
5. 発表準備
6. 像内文書・願文を読む
7. 像内文書・願文を読む
8. 像内文書・願文を読む
9. 像内文書・願文を読む
10. 像内文書・願文を読む
11. 像内文書・願文を読む
12. 像内文書・願文を読む
13. 像内文書・願文を読む
14. 像内文書・願文を読む
15. 総括と講評

6. 成績評価方法：

出席 [50%]・発表内容 [50%]

7. 教科書および参考書：

テキスト：『日本彫刻史基礎資料集成鎌倉時代造像銘記篇』（中央公論美術出版）、『菅家文草 菅家後集』（日本古典文学大系 岩波書店）、『本朝文粹』（新日本古典文学大系 岩波書店）、『江都督納言願文集注解』（塙書房）

8. 授業時間外学習：

参加者は各授業の該当の箇所を事前に読んで授業に臨むこと。

9. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史研究演習Ⅱ／ History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：杉本 欣久（准教授）

講義コード：LM23405， 科目ナンバリング：LIH-ART607J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 東洋・日本美術史研究演習Ⅱ 】

1. 授業題目：

日本絵画作品研究

2. Course Title (授業題目)：

Training to read information of the Japanese paintings

3. 授業の目的と概要：

「鑑定」「鑑戒」などにも使用される「鑑」には、「見分ける」や「見定める」という意味があり、さらに「たのしむ」や「めぐる」ことをあらわす「賞」が付いて「鑑賞」となる。つまり「美術鑑賞」の本来の意味とは「真贋」を見極め、その価値を実感したうえで、作品の持つ良さを味わう、ということである。

本講はこの意味での「美術鑑賞」を実現し、さらに美術館や博物館における絵画分野の担当学芸員として必要なスキルを獲得するため、毎回、実物絵画資料を掲示し、そこから情報を読み取る訓練を行う。

4. 学習の到達目標：

美術作品を歴史資料として用いる場合だけでなく、一般的な鑑賞の際にも「どこを見れば良いのかわからない」といった声をよく耳にする。それはこれまでの学習方法において、書籍によって何らかの事象を調べることに慣れているものの、対象に即して自分自身の眼でつぶさに観察分析し、情報を読み取る訓練がほとんどなされていないことに起因している。

本講は作品を置き去りにしないため、対象に即して読み取るべき情報やその優先順位を見極める能力の向上を目指す。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

毎回、異なる実物絵画資料を掲示し、受講生が協力しながら調査用紙に情報を記述していく。翌週の 30 分でその内容をまとめて口頭発表を行う。

6. 成績評価方法：

十分な出席が必要となり、かつ消極的受動的な授業態度であれば単位は出ない。評価は発表内容とともに主体性の部分で判断する。

7. 教科書および参考書：

【参考書】

◎美術全集

『原色日本の美術』（小学館 1970 年代前半）

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970 年代前半）

『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970 年代前半）

『日本美術全集』（学習研究社 1970 年代後半）

『日本美術全集』（講談社 1990 年代前半）

『世界美術大全集』東洋編（小学館 1990 年代後半）

『日本美術全集』（小学館 2010 年代）

8. 授業時間外学習：

日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を得ることができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が見えていて何が見えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくといよい。

9. その他：なし

単位を取得するためには、全体の 3 分の 2 以上の出席を要する。